

1 日 時 平成31年2月7日(木) 第2校時(9:35~10:20)

2 場 所 1年2組 教室

3 学年・組 1年2組(男子14名, 女子14名 計28名)

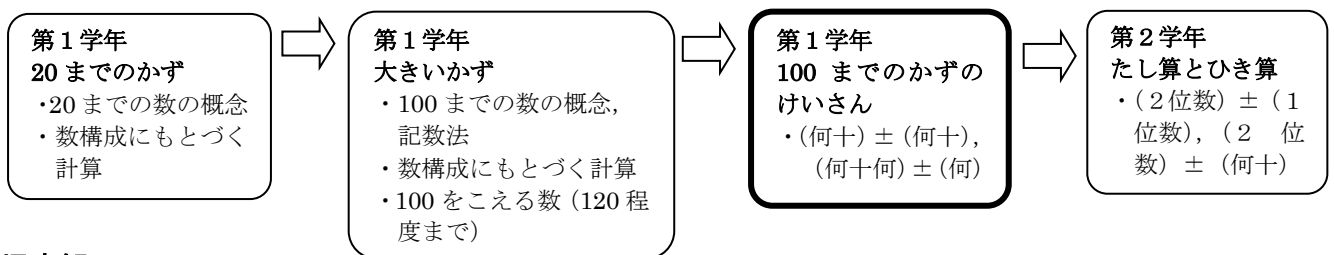
4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領、第1学年の内容「A数と計算」「(2) 加法, 減法(エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。」を受けて設定している。

第1学年では、1位数と1位数との加法及び減法について、「たしざん(1)」「ひきざん(1)」で計算の意味や繰り上がり, 繰り下がりのない計算について学習してきた。また、数の意味や100までの数の構成については、「1 かずとすうじ」「8 20までのかず」「17 大きいかず」で学習してきた。本単元では、これまでの学習をもとに、簡単な場合の2位数などの加法及び減法の仕方を考える。この学習を通して、1位数までの計算の理解を確実にするだけでなく、2位数までの数の理解をより確実なものにしていく。また、この学習を受けて、第2学年では2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えていく。

【指導の系統】



(2) 児童観

本学級の児童は、これまで、具体的な事柄について加法や減法が用いられる場合や、加法や減法の意味、またその計算の仕方について学習してきた。

レジネステスト(等)による児童の実態は以下のとおりである。

○数の意味の理解 96%

○100までの数の構成の理解 92%

○簡単な2位数の加法や減法の問題の演算決定を行い立式し、正しく計算すること 89%

このことから、数の順序数や集合数の意味について理解することはほぼできているが、10のまとまりがいくつと1がいくつという100までの数の構成については課題があることがわかった。また、簡単な2位数の計算については立式はできるものの、数の構成に着目して答えを出すことが難しい児童がい

る。

そこで、具体的な操作活動や絵を円などに活用し、数と事象を対応させながら、問題場面をとらえさせ、児童自らが既習事項をもとに、問題解決に取り組むような工夫をしていく。また、10の束や10円玉などを用いて、10を単位とした考え方に気づかせ、一位数の計算と関連付けて考えさせるようにしていく。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、具体的な場面に基づいて、立式させ、児童が自らこれまでに学習してきた数の見方や計算の仕方を活用して新しい計算の仕方を考え、表現することができるように指導していく。

まず、国語科「ものの名まえ」と関連付けて、「おみせやさんごっこをひらく」というゴールを持たせる。そして、「本物のお店やさんみたいにしたいから、算数セットのお金を使ってみたい」という児童の発言をいかし、「お金の計算ができないとつかえないから練習しよう」と必然性を持たせ、「課題の設定」を行う(UD⑤見通し)。まずは、(何十) ± (何十) の計算において、10の束の数え棒を使って具体的操作を通して、数の構成に着目した「情報の収集」や「整理・分析」を行う(UD⑩動作化)。その際、(何十) ± (何十) の計算は、10の束が(何) ± (何) と考えるとできることをおさえる(UD⑥焦点化)。また、(何十何) ± (何) の計算も同様に数え棒を操作させ、数の構成に着目させながら「ばら同士をたしたり、ひいたりするとできる」ことおさえながら答えを導かせる。単元末には、これまでの学習を振り返り、国語科「ものの名まえ」と関連付けて、お金を使いながら理解を深めていく。(UD⑪共有化)。

<本単元で育成しようとする資質・能力とのかかわり>

本単元では、数え棒等を用いた具体的操作を取り入れ、数の構成に着目した計算の仕方を説明する活動を取り入れながら、思考力を高める。

5 単元の目標

- 数構成に基づいて、たし算、ひき算ができるよさを知り、進んで用いようとするができる。
- 数構成に基づいて、たし算、ひき算の計算の仕方を考えることができる。
- 100までの数のたし算、ひき算ができる。
- 数構成に基づくたし算、ひき算の計算の仕方を理解することができる。

6 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
10がいくつ分、ばらがいくつに着目すると100までの数の計算ができることを知り、進んで用いようとしている。	100までの数の計算について、2位数の構成に基づいて、計算の仕方を考えている。	100までの数のたし算、ひき算の計算ができる。	2位数の構成に基づいて、100までの数のたしざん、ひきざんの計算の仕方を理解している。

7 指導と評価の計画（全4時間）

時間	狙い・学習活動	評価規準（評価方法）			
	☆学習スパイラル（6つ）を明記	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
1	<ul style="list-style-type: none"> ・10のいくつか分と考え、100までの数の（何十）±（何十）の計算ができる。 ○10のたばがいくつとみて、たしたり、ひいたりするとできる。 <p>課題の設定, 情報の収集</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◎100までの数の計算について、2位数の構成に基づいて、計算の仕方を考えている。 <p>（発表・行動観察）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○10がいくつか分と考え、（何十）±（何十）の計算方法理解し、計算することができる。 <p>（発表・ノート）</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・100までの数の（何十何）±（何）の計算（繰り上がりなし、繰り下がりなし）ができる。 ○ばらのほうをたしたり、ひいたりするとできる。 <p>情報の収集, 整理・分析</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○（何十何）±（何）の計算方法を理解し、計算することができる。 <p>（発表・ノート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○（何十何）±（何）の計算方法を理解している。 <p>（発表・行動観察）</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・100までの数の（何十何）±（何十）の計算ができる。 ○10のたばをたしたり、ひいたりするとできる。 <p>まとめ・創造・表現</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○（何十何）±（何十）の計算方法を理解し、計算することができる。 <p>（発表・ノート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○（何十何）±（何十）の計算方法を理解している。 <p>（発表・行動観察）</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・おみせやさんごっこを通して、100までの数の計算の理解を深めることができる。 ○おかねをつかっても、かんたんにけいさんができる。 <p>実行, 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎今までの学習を生かして、100までの数の計算が使われている場面に気づき、進んで用いようとしている。 <p>（発表・行動観察）</p>			

8 本時の展開

（1）本時のめあて（目標）

100までの数の（何十何）±（何）の計算（繰り上がりなし、繰り下がりなし）ができる。

（2）観点別評価規準

◎数え棒を用いて、（何十何）±（何）の計算の仕方を理解し、計算することができる。

評価方法：発表，ノート

(3) 本時で育成したい資質・能力の評価基準（達成した児童の姿）

資質・能力	評価基準(達成した児童の姿)
論理的思考力	A 2位数の構成に基づいて、100までの数の(何十何)±(何)の計算ができる。 B 数え棒を用いて、100までの数の(何十何)±(何)の計算ができる。 C 課題を解決することができない。

(4) 学習の展開

	学習活動 ・児童の思考の流れ学習スパイラル	指導上の留意事項(・) (支援の具体的UD)	○評価規準 (評価方法) ☆達成した児童の姿(資質・能力)
導入	1 問題提示 おはじきを23こもっています。5こもらいました。ぜんぶで、なんこになりますか。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発言でキーワードとなるものは板書する。 「もらいました」「ぜんぶで」があるから、たし算であることに気付かせる。(UD⑧既習) 23と5を数え棒で並べさせて、児童が問題場面を捉えやすくする。(UD⑤見通し) 	
	2 気づきの交流 整理・分析 ・ぜんぶでとかいてあるから、たし算になると思うよ。 ・昨日はあめだったけれど、今日はおはじきだ。 3 解決への見通し立て 整理・分析 ・昨日は10の束をたしたけれど、今日はばらをたすかな。 ・昨日みたいに数え棒をつかったらできるかな。 ・ $23+5=28$ になると思うよ。 ・ $23+5$ は73になると思うよ。 4 めあての作成 課題の設定 □□□めあて□□ (なん十なに) +ばらのけいさんのしかたは？		

展 開	5 個の学びをする 情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 全児童が23と5を数え棒で並べたことを確認して、個の学びを始める。 個人で少し考えさせた後、どのように考えたかペアで交流する。 数え棒と言葉を結び付けて考えることができるように、数え棒のどこを動かして考えたのか説明させる。(UD⑩シェア) 23+5の=73の誤答を取り上げ、なぜ誤答なのか考えさせることで学びを深めていく。 	○100までの数の(何十何)±(何)の計算(繰り上がりなし, 繰り下がりなし)ができる。(発表・行動観察)
	6 集団解決をする 【ペアでの学び】 ○数え棒を用いて、どのように考えたのか説明しあう。 ・23に5をあわせると、28になりました。 【全員での学び】 ・23+5=28になります。 ・5はばらだから10の束と足してはいけません。 (1) 問題提示2 おはじきを37こもっています。3こあげました。のこりはなんこですか。 7 学習のまとめをする まとめ・創造・表現	<ul style="list-style-type: none"> (何十何) - (何) についても、同様な流れで課題を解決させる。その際、①ひき算ことばを見つけさせる。②数え棒を用いて説明させる。③37-3=7の誤答を取り上げる。 板書に残っているキーワードでまとめさせる。難しい場合は()埋めにし、学習の達成感を味わわせる。 	
まとめ ばらどうしをたしたり、ひいたりするとできる。			
	8 適応問題を解く。 ①23+6 ②72+2 ③43+4 ④27-2 ⑤49-5 ⑥95-3	<ul style="list-style-type: none"> 数え棒を使って「23に6をたして29」と23を分解しないまま、直感的に計算できるようにする。 	
ま と め	9 振り返りをする 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をノートに振り返らせる。 	

9 板書計画

2/7 おみせやさんごっこをひらこう! ㊦ (何十何)+ばらのけいさんのしかたは? ㊦ ばらのかずをたしたり、ひいたりするとできる。

-100までの かずの けいさん-

㊦ おはじきを23こもっています。5こもらいました。ぜんぶで、なんこになりますか。

㊦ ・ぜんぶで→たしざん
・もらうと→ふえる
・23+5=28?

(教師用数え棒)

しき 23+5=28
こたえ 28こ
しき 23+5=73

↑

ばらのかずどうしをたす

も2 おはじきを37こもっています。3こあげました。のこりはなんこになりますか。

㊦ ・あげる→へる
・のこりは→ひきざん
・37-3=34?

(教師用数え棒)

しき 37-3=34
こたえ 34こ
しき 37-3=7

↑

ばらのかずどうしをひく

㊦

1-5